



## 女性研究者研究活動支援事業最終年度を迎えて

学長 木南 英紀



平成23年度に文部科学省「女性研究者研究活動支援事業」に本学が提案した「順天堂大学女性研究者支援プログラム(順天堂モデルの提案)」が採択され、本年度で3年目、最終年度を迎えます。

これまでの2年間、本学が事業提案した取り組みを実現させるために教職員一丸となり学内支援体制の整備をしてまいりました。

若手女性研究者の支援として研究者支援コーディネーター3名を置き、この2年間に19名の女性研究者の支援を行いました。補助事業最終年度の今年も多く支援希望があり、当該事業が着々と学内に根付いてきたことを伺えさせます。是非、来年度以降もこの取り組みを継続し、優秀な女性研究者の活動支援を続行することが出来ればと考えます。

さて、第4期科学技術基本計画(平成23年度～平成27年度)では、医学系分野の女性研究者採用目標値は30%とされています。本学、事業申請時(H22)の専任教員(教授・准教授・講師・助教)1,026人の女性の割合は23.4%と当時としても他大学に比べても相当高いレベルにあり、医学部・医学研究科だけをみても17.9%と決して低くはありません。しかし、准教授・教授へとアカデミックキャリアパスのステップを追って、女性の割合が低くなるという現状を全学的に改善を進め、平成24年度末で26.9%となりました。また大学院医学研究科では、優秀な女性人材の登用を積極的に行い、女性准教授1名が教授に昇進したのに続き、平成25年度早々には、2名の女性教授が誕生いたします。

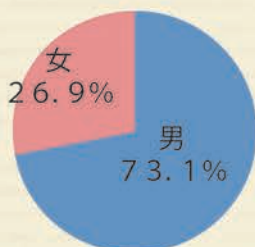
本学は引き続き女性研究者を取り巻く環境を分析しながら、柔軟な勤務態勢の構築、妊娠・出産・育児時等の支援やささまざまな研究支援活動を行ってまいります。これらの取り組みが、女性研究者の研究力向上とキャリアアップのために有効な手段となるようにシステム化し、支援の量的および質的改善を継続したいと思います。

また、研究者の交流の場も大切にしたいと思います。平成23年度には女性研究者へのメッセージとして、世界の第一線で活躍されている国内外の女性研究者をお招きし、国際シンポジウム「女性研究者事情の世界スタンダードを知る」を開催。平成24年度には、国内の医学部外科系分野の女性教授をお招きし、「女性外科系医師・研究者からのメッセージ(次世代女性研究医への期待)」と題して外科系教授として活躍されている先生の苦労話を聞いたことは、若手研究者の励みになったことでしょう。是非これらの取り組みは継続させたいと思います。

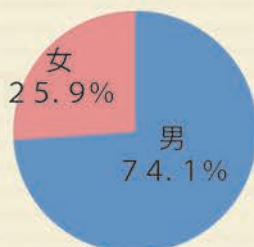
さて、本学は事業最終年度である今年(平成25年度)、創立175周年を迎えます。出発点から藩という枠組みを越えた異化の環境下での教育が行われた歴史と伝統ある順天堂は、国際的舞台で活躍する研究者の育成を一層推進してまいります。次世代を担う女性研究者の支援と登用等、さらなる充実を進め、男女を問わず国際発信力の高い研究者育成をできる環境と体制の変更に努めて参ります。

### 【 順天堂大学の男女比と女性研究者の割合 】

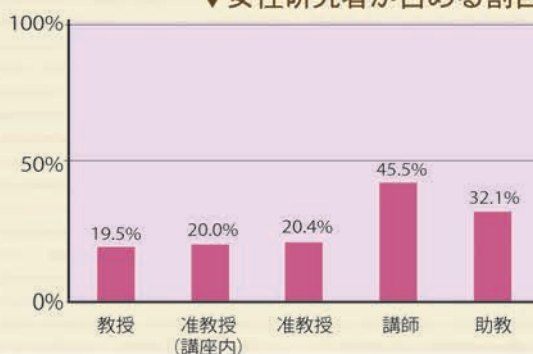
▼順天堂大学内男女比



▼本郷地区内男女比



▼女性研究者が占める割合



## 女性研究者支援「順天堂モデル」最終年度を迎えて

女性研究者支援コーディネーター 平澤 恵理



平澤 恵理  
Eri Hirasawa

順天堂大学大学院医学研究科  
老人性疾患治療研究センター  
先任准教授

順天堂大学医学部卒業

研究職歴：1989年3月  
国立精神神経センター神経  
研究所疾病研究第一部長  
研究員1992年6月順天堂大学  
医学部神経学講座助手  
1996年10月米国立保健衛生  
研究所、国立歯科学研究所、  
発生生物学専攻、分子生物学  
室客員研究員

流動研究員1992年6月順天堂大学  
医学部神経学講座助手1996年10月  
米国立保健衛生研究所、国立歯  
科学研究所、発生生物学専攻、  
分子生物学室客員研究員

女性研究者の存在意義のひとつに、組織の多様性創出への貢献があります。特に研究分野においては、組織が多様性を持つことから、新しい価値観が生まれ、研究力も進化するものと思われます。女性の価値観とニーズは限りなく多様であるとの理解から、順天堂ではその支援にあたってオーダーメイド対応を大切にしてきました。事業開始からの2年間、多くの女性研究者との面談を通じて、妊娠出産、育児、介護というライフイベントと研究を両立させるための課題も多く見つかりました。これらの課題は女性だけのものではなく、個人の研究と生活の質の向上のための重要なシーズと思われるものばかりでした。最終年度の課題はこれらのシーズを育み、展開することにあると思います。今後の事業展開においては、具体的に想像力に富むという女性の特質を活かし、順天堂の進化のため。女性研究者支援関係者一丸となって頑張っていきたいと思います。本事業終了後も近隣の大学、企業と連携し、順天堂モデルを充実、拡充していけるように願っています。

## 女性研究者支援「順天堂モデル」の現況と未来

女性研究者支援コーディネーター 古田 晶子



古田 晶子  
Akiko Furuta

男女共同参画推進室研究支援  
コーディネーター・順天堂  
大学寄付講座（神経疾患病  
態構造学講座）非常勤助教

福岡大学医学部卒業

研究職歴：1982年福岡大学  
放射線科1986年産業医科学  
学病理大学院、助手1992年  
ジョンスホプキンス大学研  
究員1997年九州大学医学部  
脳研病理解助手2003年国立  
精神・神経医療研究センター  
研究員2010年順天堂大学  
研究員2010年ミネソタ大学  
研究員2011年順天堂大学  
非常勤助教

学病理大学院、助手1992年  
ジョンスホプキンス大学研  
究員1997年九州大学医学部  
脳研病理解助手2003年国立  
精神・神経医療研究センター  
研究員2010年順天堂大学  
研究員2010年ミネソタ大学  
研究員2011年順天堂大学  
非常勤助教

文部科学省「女性研究者研究活動支援事業」に本学が提案した「順天堂大学女性研究者支援プログラム（順天堂モデルの提案）」が平成23年度に採択され、最終年度である3年目を迎えました。順天堂モデルとは、オーダーメイド型女性研究者養成プランで、女性研究者の個々のニーズに対応して必要な支援者の人選と業務依頼およびカウンセリングを行い、妊娠出産、育児、介護というライフイベントと研究を両立していただくことを目的としています。

この2年間は、女性研究者自体の「意識改革」と、それぞれの研究者の事情に対応した「個別対応」を心がけてきました。意識改革としては初年度国際シンポジウム—女性研究者事情のスタンダードを知る—、および昨年度シンポジウム—女性外科系医師・研究者からのメッセージ—において国内外の最高のロールモデルである女性研究者を招聘して御講演いただきました。一方、女性研究者個別対応に関するシステム構築は順調に進み、適切な支援者を配することにより「実験、子育ての時間が増加した」「支援者を得たことで精神的・身体的ストレスが軽減した」「研究を諦めようと思ったが続けることができた」という御意見をいただいております。個人的にもこの2年間の女性研究者支援事業で出会うことができた素晴らしい女性研究者の方々と交遊を結び、施設間同士のつながりの大切さも感じました。引き続きご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

この2年間は、女性研究者自体の「意識改革」と、それぞれの研究者の事情に対応した「個別対応」を心がけてきました。意識改革としては初年度国際シンポジウム—女性研究者事情のスタンダードを知る—、および昨年度シンポジウム—女性外科系医師・研究者からのメッセージ—において国内外の最高のロールモデルである女性研究者を招聘して御講演いただきました。一方、女性研究者個別対応に関するシステム構築は順調に進み、適切な支援者を配することにより「実験、子育ての時間が増加した」「支援者を得たことで精神的・身体的ストレスが軽減した」「研究を諦めようと思ったが続けることができた」という御意見をいただいております。個人的にもこの2年間の女性研究者支援事業で出会うことができた素晴らしい女性研究者の方々と交遊を結び、施設間同士のつながりの大切さも感じました。引き続きご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 最終年度を迎えて

女性研究者支援コーディネーター 国広 なごみ



国広 なごみ  
Nagomi Kunihiro

順天堂大学大学院医学研究科  
細胞・分子薬理学先任准教授

お茶の水女子大学  
理学部生物学卒業

研究職歴：  
1977年順天堂大学医学部  
助手1990年-1991年ペンシルバニア大学  
Postdoctoral Fellow1992年順天堂大学  
医学部講師1999年順天堂大学医学部助教

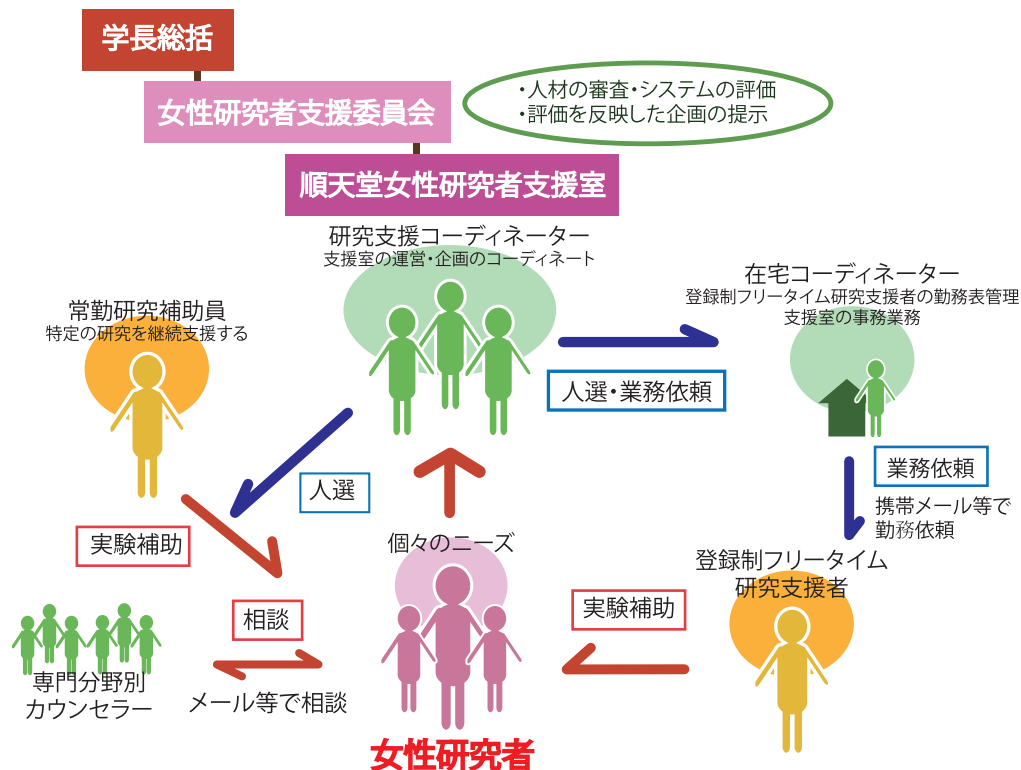
研究職歴：  
1977年順天堂大学医学部  
助手1990年-1991年ペンシルバニア大学  
Postdoctoral Fellow1992年順天堂大学  
医学部講師1999年順天堂大学医学部助教

順天堂の女性研究者研究活動支援事業も今年で3年目、最終年度を迎えました。支援事業の効果をかなり実感できた人、「ある程度は」って言う人、全くピンとこない方、立場・状況によっていろいろだと思いますが、ともかくこの事業は男女共同参画社会や「多様な研究者」育成の取っ掛かりの一つ、これを梃子に、より良い研究環境ができてくれればと思います。研究環境の改善は、システムの構築が必要な場合と、ちょっとした工夫で達成される事の2通りありますが、どちらも待っていてもなかなか思い通りになるものではありません。できるだけ良い研究環境にするために、こうしたら、と思うことが3つあります。(1) 意見、アイデア、要望があったら、まず声に出して人に言ってみる。口にするだけで呪(しゅ)がかかり実現しやすくなり、そして、多くの人がそうすると良いアイデアが生まれ実現力が湧いてきます。(2) 誰かの行動や言動のなかで、共感する事、素晴らしい、良いと思う事があったら、いいね!と本人に伝える。これは望ましい事についての頼もしい推進力となります。(3)

機会は積極的に利用する。研究助成には応募し、研究上の疑問・問題・その他の悩み等、気軽に相談する。図々しいかなと躊躇する必要はありません。諸制度は利用されるためにあるし、相談を受ける側もコミュニケーションが増えるのは良いことなのです。本支援事業も、多くの人々が利用し意見を出し試行錯誤を繰り返す内に、さらに良い仕組みとなってくると思います。それでは、みなさま、今後ともご支援をよろしくお願いいたします。

# 活動報告

## 女性研究者支援「順天堂モデル」オーダーメイド型支援



本学では、女性研究者が、研究活動と妊娠・出産・育児などのワークライフバランスを良好に保ちながら、よりよい研究成果を達成することができるよう、H23年度に採択された文部科学省科学技術人材育成費補助金女性研究者研究活動支援事業の一環として、「オーダーメイド型支援制度」を実施しております。

### ベビーシッター育児支援事業

本学が行う育児支援事業の一環として、平成24年1月より、財団法人こども未来財団の「ベビーシッター育児支援事業」を導入しております。同制度は、保育園ではカバー出来ない時間帯の保育等に関して、自宅近くのベビーシッター業者を利用する場合、一定額（1日あたり1,700円。1日1枚、1か月に24枚、年間280枚まで利用可）の補助を受けることができる制度でこれまでに5人の方が利用されています。

[http://www.juntendo.ac.jp/kyodoss/baby\\_sitter.html](http://www.juntendo.ac.jp/kyodoss/baby_sitter.html)

### 搾乳室

本学で働く女性教職員・学生で乳幼児を持つ方、どなたでもご利用になれる搾乳室を、センチュリータワー北14階に健康管理室の協力を得て設置いたしました。ご利用には事前登録が必要です。搾乳室の利用をご希望の方は、ぜひ男女共同参画推進室までご連絡ください。

<http://www.juntendo.ac.jp/kyodoss/support01.html>

### シンポジウムの開催

女性研究者支援室主催で、H23年度、H24年度とシンポジウムを開催いたしました。H23年度のキックオフシンポジウムでは「女性研究者事情のスタンダードを知る」をテーマに海外から3名、国内から2名の女性研究者を招き、国際的なシンポジウムとなりました。H24年度は女性外科系医師・研究者からのメッセージ」をテーマに国内最高峰の女性外科系分野の教授3名から貴重なお話を伺うことができました。

### ニュースレターの発行

女性研究者支援室では、毎月10日に発行しているニュースレターを、ホームページ上で公開しております。

<http://www.juntendo.ac.jp/jyosei/activities.html>

### もとまち保育所託児サポート

ワークライフバランスのサポートとして本学が運営している「もとまち保育所」では、以前より要望が多かった大学院生枠が本年度より認め同参画推進室小委員会において選考し、3名の大学院生のお子様の入所が決まりました。また、育児をしながら働き続けるための職場の環境づくりに向けた取組として、文京区と協働し「たまごクラブ」を定期的に開催しています。

<http://www.juntendo.ac.jp/kyodoss/nursery.html>

### 女性研究者相談室

家庭のこと、ご自身のライフ・イベントにひとりで悩んでいる女性研究者のために、相談室を設けております。ぜひお気軽にご相談ください

<http://www.juntendo.ac.jp/kyodoss/soudan.html>



▲ H24.7月創刊 毎月10日発行



▲ H23年度 キックオフシンポジウム

▲ H24年度 第2回シンポジウム

## 利用者の声

### シンポジウム開催時 託児所を利用した感想をお聞かせください

- とても清潔で、丁寧な対応で、信頼が置けました。引込み思案な我が子も、遊びながら徐々に親との距離を離してくださり、後ろめたい思いなく、講演に集中することが出来ました。昼ごはんと一緒に食べようかと、迎えに行ったら、仲良くなったお友達と食べるから、ママとは食べない!という程、楽しんでいて、嬉しい誤算でした。次回も、機会があったら是非利用させていただきます
- 預けていた方が少なかったせいもあると思いますが、子供当たりの保育士の数が多く、手厚く見ていただいたようでよかったです。
- 定評のある会社の託児サービスを利用してくださったので、とても安心して預ける事ができました。ありがとうございました!
- 会やセミナーでも託児所の準備されていることが少ない中、このようなご配慮はとても有難いです。会場のすぐ近くに託児所を設けて頂き、また予定時間を越えて開催されておりましたが、その間も託児をして頂いたので安心して最後までシンポジウムに参加することができました。
- 託児サービス会社のスタッフの対応もよく、子供も楽しんでいた様子で安心した。



### 子育てをしながらお仕事をすることで 今後、大学へ望むこと、ご意見ご要望などあればお聞かせください

- これからはワーキングマザーが当たり前前の時代になりますし、景気が回復すれば看護師の離職も始まるでしょう。現状で、順天堂は託児サービスなどについては遅れをとっている大学です。今はどこもこそって託児に力を入れ始めています。ぜひ順天堂も時代の波に乗り遅れず、保育の充実を目指していただくと、優秀な女性スタッフが育って行くと思います。
- このように託児システムがあると積極的にシンポジウムに参加ができるので、今後有料で構わないので他のシンポジウムの際にも託児サービスがあれば良いなと思いました。
- 社会的な問題でもある待機児童の多さ、預ける場所が容易に見つからないために職場復帰を躊躇う医師も沢山いらっしゃると思います。このままではどの科でも医局員の数が増える一方ではないでしょうか。大学病院に勤務する医師の為の保育所の設置を是非ともお願いしたいです。
- カンファレンスや勉強会・研究会に託児所を積極的に併設してほしい。休日出勤の際なども一時利用できる託児所があると、大変便利だと思う。
- 有料で構わないので託児サービスがあると、講演会などへの参加が容易になると思います。
- 職員が利用できる病児保育をつくっていただきたいです。

※皆様からの貴重なご意見が、女性が働きやすい環境にするためのヒントになっています。これからもお気づきの点があれば、女性研究者支援室、男女共同参画推進室へご連絡ください。一つでも多くの事が実現できるよう頑張っております。

(男女共同参画推進室)



### ■ ホームページのご紹介 ■

女性研究者支援室、男女共同参画推進室の活動については以下ホームページでご覧いただけます。

女性研究者支援室HP

<http://www.juntendo.ac.jp/jyosei/index.html>

男女共同参画推進室HP

<http://www.juntendo.ac.jp/kyodoss/index.html>

編集・発行



順天堂大学  
JUNTENDO UNIVERSITY

女性研究者支援室

〒113-8421

東京都文京区本郷2-1-1 センチュリータワー南12階

☎ 03-5802-1009 mail: j-danjyo@juntendo.ac.jp